

下谷神社参拝の栞

一、神社名 下谷神社（したやじんじや）

一、祭神名 大年神（おおとしのかみ）

一、配祀祭神名 日本武尊（やまとたけるのみこと）

一、御由緒概要

大年神は天照皇大神の御弟素盞雄尊の御子で五穀を主宰し厚く産業を守護し給い、倉稻魂命と共にひろく「お稻荷様」として祭られている神様であります。

日本武尊は第十二代景行天皇の皇子で智仁勇を兼備え諸国を平定して御恩威を四方に輝かされました。

当神社は、人皇第四十五代聖武天皇の御代天平二年（西暦七三〇年）に峡田の稻置らが、大年神日本武尊の御神徳を崇め奉つて上野忍ヶ岡の地にこの二神をお祀したのが創めであると伝えられて居ります。

第六十一代朱雀天皇の天慶三年田原藤太秀郷が相馬に向うとき当神社に参籠して朝敵平将門追討の祈願をなし、その平定の後報恩のため社殿を新に造営致しました。降つて寛永四年寛永寺を建立するに当り、社地を上野山下に移されましたが狭いので延宝八年更に広徳寺門前町に替地して社殿を造営しました。当神社は昔から「正一位下谷稻荷社」と称し奉られていたので、この時からこの町を稻荷町というようになりました。

明治五年に神社名を「下谷神社」と改め、翌六年郷社に昇格致しました。

大正十二年大震災のため、社殿悉く焼失しましたのでとりあえず仮社



下谷神社御社殿



本社大神輿渡御（宮入）



拝殿天井絵「龍」 横山大観画伯筆（昭和9年春）

殿に遷座しましたが、昭和三年土地区画整理により改めて社地を現在の所に定め、同六年社殿造営の工事を起し同九年完成し本遷座し奉りました。

その後東京は御承知のように戦争の災禍に遭いましたが、当神社は御祭神の偉大な御神徳により、奇しくも御神体御宝物はもとより、社殿全建物に聊かの損害もなく、平成五年には社殿屋根の修復、平成十年には床の補修工事を終えその荘厳さを保ちつ、現在に至っております。

尚、当神社は寛政十年（西暦一七九八年）に江戸で初めて寄席は行われた由縁の地で、境内には「寄席発祥の地」の石碑が建立されております。

祭 日 表

歳旦祭	新年祭	節分祭	紀元祭	祈年祭	稲荷祭	例大祭	敬老祭	新春祭	大祓
一月一日	一月二日	二月節分日	二月十一日	二月十五日	三月十一日	五月十一日	六月三十日	九月十五日	十一月十五日
									十二月三十一日

〒110-0015

東京都台東区東上野三ノ二九ノ八

下谷神社々務所

☎（三八三二）一四八八

交通機関

JR 上野駅
地下鉄 稲荷町駅
バス 下谷神社前

<http://www.tctv.ne.jp/shitaya->

下谷神社拝殿天井絵「竜」

横山大観画伯筆（横十尺縦六尺）

大正十二年九月の関東大震災後、昭和三年に区画整理が行われ、下谷神社の現在の御社殿は昭和九年四月に竣工した。

新築する拝殿には後世永く誇り得る如き立派な絵を天井に掲げたいという氏子一同の念願もあり、先々代宮司は総代と伴に大観邸に参上し、先生に面会して拝殿天井絵の揮毫を依頼したところ先生はご多忙の中を快く御承諾下さったそうです。当時の書生さんは「下から見上げる絵と横から見る絵は構図が違ふと仰り、何度も脚立に乗って下絵を天井に貼られました。」と話していました。

当時の下谷神社史料には「此の天井絵「竜」の図は大観画伯快心の力作にして実に見事なる出来映なり本日谷中の日本美術院よりトラックに載せて当社に搬入す直に奉納式を執行し参列者一同池の端茅町の横山画伯邸に御礼に参上す」（昭和十二年十二月廿五日）とある。

実は、大観先生が拝殿天井に納まったこの絵をご覧にお出で下さった時、先に贈呈した御揮毫料をお持ちになり、「立派な社殿を造るのにさぞやお金が掛かっただろう。神様の事だからこれはそっくり奉納する。こんなお金持ってこなくていいから、もつと大勢で両手に酒ぶら下げて来い。」ということ
で前記の参列者一同池の端茅町の横山画伯邸に御礼に参上す
となった次第である。三度のメシよりお酒が好きだった大観画伯、この時の大宴会が御礼の代わりになったという神社や氏子にとって誠に有難い話である。

☆拝観ご希望の方は神札所にお声掛け下さい（無料です）